

自然と共存するために

（株）日本除雪機製作所

札幌の冬、といえば雪景色。一年の三分の一を超える時間を雪と共にする札幌では、雪との共存が大きなテーマとなります。冬の札幌を美しく彩る雪はしばしば交通の障害にもなりますが、それを最低限に留めるために日夜活躍するのが除雪機です。

日本初の 専門メーカー



一口に除雪機といっても、



一般道で働くロータリ除雪機

や列車の軌道上の除雪をする軌道除雪車、さらには凍結防止剤散布車や、スキー場に欠かせないゲレンデ整備車まで、さまざまなものがあります。

日本除雪機製作所は日本初の除雪機械専門メーカーとして設立され、これらの数多くの除雪機を世に送り出してきました。

現在は全国各地に販売・サービス拠点を持ち、広く事業展開していますが、本社の従業員はほとんどが手稲区在住。また、四十周年を記念して今年行われた工場の一般公開には、百人を超える地元の人々が集まるなど、地域にも深いつながりを持っています。

自然と共に



生きるって

「日本の都市は降雪量の多い地域にあるところが多いですが、中でも百八十万人以上の人が暮らす札幌は、世界的にも非常に特殊な例です。

ですから札幌では、道路のある所には除雪機の働く場所がある、といえるでしょう。

一方で、だからこそ除雪機は環境に優しいものでなければならぬといえます。自然との共生を図るためには、省エネルギー化や排気ガスの無害化などに取り組みることが不可欠になってきています」と、管理部の宮澤和孝さん。

例えば、従来、凍結防止剤の散布は乾式（凍結防止剤をそのまま散布する方式）で行われたために塩害が問題となっていました。そこで、湿式（凍結防止剤に水溶液を加えることで散布量を必要最小限に抑える方式）による凍結防止剤散布車を開発。これによって、塩害をはじめとする環境への悪影響の緩和に成功したそうです。

最先端の技術を除雪機という形に結晶させることで、人



▲日本除雪機製作所が持つ、日本唯一の除雪専用テストコース（所在地：小樽市張碓町）

…ここで、耐久性や操作性をはじめとする各種の性能テストが行われています。



除雪機に

懸ける思い

と自然との共存を支えていく。そんな思いが受け継がれ、開発の基本となっています。

「将来的には操作が簡単で誰にでも扱える、『乗用車のような除雪機』を造り出したいです。そして最終的には、夜中に、静かに、自動（無人）で除雪できるようにしたいと思っっているんですよ」。

宮澤さんの夢が現実になるのも、それほど先の話ではないかもしれません。

それぞれの信念に基づいて活躍するこれらの会社のエネルギーは、これからの手稲を先導する『力』となるでしょう。そして、それに刺激を受けた新たな『力』が生まれ、『ていね』の名を全国に知らしめてくれるはず。こうした一つ一つの活力が、手稲のさらなる活性化のための、大きな『力』となるに違いありません。